



安全データシート

ダウ・ケミカル日本株式会社

化学品の名称: BETACLEAN™ GC800 ガラスクリーナー

発行日: 2016/10/14

印刷日: 2017/09/12

ダウ・ケミカル日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。使用条件によって他の対応を必要とする場合以外は、記載注意事項を遵守されるようお願い致します。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: BETACLEAN™ GC800 ガラスクリーナー

推奨用途及び使用上の制限

特定された用途: ガラスクリーナー -- 自動車用途への使用。

会社情報

ダウ・ケミカル日本株式会社

140-8617

東京都品川区東品川2丁目2番24号

天王洲セントラルタワー

会社電話番号:

03-5460-2100

SDSQuestion@dow.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017

緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

エアゾール - 区分 3

水生環境有害性(急性) - 区分 3

GHS ラベル要素

注意喚起語: 警告!

危険有害性情報

圧力容器: 熱くなると破裂することがある。

水生生物に有害。

注意書き**安全対策**

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 環境への放出を避けること。

保管

日光から保護してください。40°C/104°F を超える温度にさらさないでください。

廃棄

残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
水	7732-18-5	適用外	適用外	> 85.0 - < 95.0 %
ブタン	106-97-8	(2)-4	(2)-4	< 10.0 %
エチレングリコールモノブチルエーテル	111-76-2	(2)-407	(2)-407	< 5.0 %
プロパン	74-98-6	2-3	(2)-3	< 5.0 %
水酸化アンモニウム	1336-21-6	(1)-314	(1)-314	> 0.1 - < 1.0 %

4. 応急措置**必要な応急措置**

一般的アドバイス: 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入: 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。呼吸困難の時は、有資格者が酸素吸入を行う。医師を呼ぶか、医療機関に搬送する。

皮膚接触: 直ちに、15分以上大量の水で皮膚を洗い流し、その間に汚染された衣類や靴を脱がせる。即刻、医師の診察を受ける。衣類は再び着用する前に洗うこと。靴、ベルト、時計のバンドなど、汚

染された革製品は適切に廃棄する。すぐに使用できる適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

眼に入った場合: 数分間眼を徹底的に水で洗い流す。1~2分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。作業場内に適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

飲み込んだ場合: 緊急医療措置は必要ない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状: 上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項: 患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。溶血が疑われるときは、ヘモグロビン、ヘマトクリット、血漿中遊離ヘモグロビン、尿をモニターする。重度の症例には、全血輸血または濃縮赤血球輸血が必要になると思われる。重炭酸塩を用いて尿をアルカリ化すると、腎臓損傷を予防することができると思われる。暴露により「心筋刺激過敏性」が亢進することがある。絶対に必要でない限り、エピネフリンなどの交感神経作用薬を投与してはならない。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

消火剤: この物質は不燃性である。別の発火源による火災にさらされた時は、その火災に適した消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤: データなし

特有の危険有害性

有害燃焼副産物: 適用不可。

異常な火災および爆発の危険: 火災により内容物の放出や容器が破裂することがある。放出された物質は燃焼しない。

消防士へのアドバイス

消火手順: 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。この物質は不燃性である。他の燃えている物質の消火にあたる。

消火を行う者の保護: 陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。保護具が入手できないか使用できないときは、保護された場所から、または安全な距離をおいて消火活動を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 場所を隔離する。不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。流出物の風上にいること。漏れたり流出した場所

を換気する。項目7の取扱い注意事項を参照。適切な保護具を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項: 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目12の環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 可能なら、漏出物は回収する。以下の物質で吸収させる: 猫用のトイレ砂。砂。おが屑。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。追加情報として、項目13の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 眼、皮膚、衣服との接触を避けること。蒸気の吸入を避けること。取扱い後はよく洗浄すること。容器を閉じて保管すること。適切な換気装置の下でのみ使用する。項目8のばく露防止及び保護措置を参照。

保管: GMP(製造および品質管理に関する基準)に従って保管する。

保管安定性

保管温度:

> 5 - < 35 °C

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
ブタン	ACGIH	STEL	1,000 ppm
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	1,200 mg/m ³ 500 ppm
エチレングリコールモノブチルエーテル	ACGIH	TWA	20 ppm
	ACGIH 安衛法(管理濃度)	TWA ACL	BEI 25 ppm
プロパン	ACGIH		Asphyxiant
水酸化アンモニウム	ACGIH	TWA	25 ppm, アンモニア
	ACGIH	STEL	35 ppm, アンモニア
	Dow IHG 日本産業衛生学会 (許容濃度)	TWA OEL-M	10 ppm, アンモニアとして 17 mg/m ³ 25 ppm

曝露防止

工学的制御: 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。密閉した場所または換気の不十分な場所では、認可された自給式呼吸器を使用するか、補助空気ボンベ付陽圧エアラインを使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用

手の保護具: この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例: ブチルゴム。ネオプレン。天然ゴム(ラテックス)。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。許容できる手袋の素材の例: ポリ塩化ビニル(PVC またはビニル)。次の素材の手袋を避ける: ポリビニルアルコール(PVA) 注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具: ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	エアゾール
色	無色
臭い	無臭
臭いの閾値	データなし。
pH	データなし。
融点・凝固点	データなし。
凝固点	データなし。
沸点 (760 mmHg)	データなし。
引火点	密閉式引火点試験 > 93.3 °C ペンスキー-マルテンス密閉式 ASTM D 93
蒸発速度(フ・フィルファクター=1)	データなし。
燃焼性(固体、気体)	この製品はGHS分類の可燃性ではない。
爆発範囲の下限	データなし。
爆発範囲の上限	データなし。
蒸気圧	データなし。
相対蒸気密度(空気=1)	データなし。
比重・相対密度(水=1)	0.9527 ASTM D1475
水への溶解度	データなし。
n-オクタノール/水分分配係数	データなし
自然発火温度	データなし。
分解温度	データなし。
動粘度	データなし。

爆発特性	データなし。
酸化特性	データなし。
分子量	データなし
揮発性有機化合物	0.78 lb/gln <i>EPA METHOD NO. 24</i> (代表値)

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: データなし

化学的安定性: 安定している。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

避けるべき条件: 高温では、容器が裂けたり破裂することがある。

混触危険物質: 酸化剤との接触は避ける。

危険有害な分解生成物: 分解しない。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性 (経口)

少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

単回経口投与の LD50 のデータなし。

急性毒性 (経皮)

繰り返し皮膚接触すると、有害量を吸収するおそれがある。過剰暴露によって溶血を引き起こすことがあり、従って血液の酸素運搬機能が低下する。

経皮 LD50 は決定されていない。

急性毒性 (吸入)

単回吸入暴露で危険有害となる蒸気濃度に到達可能である。濃縮したりする意図的な誤使用や蒸気の吸引は、害をもたらし、死に至ることもある。溶剤に過剰暴露すると、呼吸器の刺激や中枢神経衰弱を起こすことがある。症状には、頭痛、めまいと眠気のほか、協調運動障害および意識消失の進行などがある。過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる；めまいおよび眠気が認められることがある。過剰暴露により、エピネフリンに対する感受性が増大し、心筋の被刺激性亢進(不整脈)を起こすことがある。

LC50 は決められていない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

中等度に眼を刺激することがある。

感作性

皮膚感作性:

関連のあるデータは得られていない。

呼吸器感作性:

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

入手可能データは特定標的臓器毒性（単回ばく露）を決定するには不十分である。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

少量成分について:

動物では、以下の器官に有害作用を及ぼすことが報告されている: 血液(溶血)や、腎臓および肝臓への二次作用。

発がん性

エチレングリコールブチルエーテルに関する長期動物試験で、多くはないが統計的に有意な腫瘍の増大がマウスに認められたが、ラットにはみられなかった。この作用がヒトにあてはまるとは考えられない。この物質が適正な産業上の取り扱い手順に従って取り扱われていれば、暴露してもヒトに対する発がんリスクをもたらすことはない。

催奇形性

動物試験で催奇形性のなかった成分を含有し、他の胎児影響は、母体に有毒な摂取量の場合のみ起こった。

生殖毒性

成分に関する動物試験では、親動物に重大な毒性を示す用量でのみ生殖への有害影響が認められた。

変異原性

試験した成分について: インビトロ遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。

吸引性呼吸器有害性

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント:**ブタン**

急性毒性（経口）

単回経口投与の LD50 のデータなし。

急性毒性（経皮）

経皮 LD50 は決定されていない。

急性毒性 (吸入)

過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる；めまいおよび眠気が認められることがある。過剰暴露により、エピネフリンに対する感受性が増大し、心筋の被刺激性亢進(不整脈)を起こすことがある。密閉した場所または換気が不十分な場所では、蒸気が容易に蓄積し、酸素濃度が下がり、意識がなくなったり、死に至ることがある。

LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 280000 ppm

エチレングリコールモノブチルエーテル

急性毒性 (経口)

動物では、以下の器官に有害作用を及ぼすことが報告されている：血液(溶血)や、腎臓および肝臓への二次作用。ヒト赤血球は、げっ歯類およびウサギの赤血球よりも溶血に対する感受性が顕著に低いことが明らかにされた。LD50, モルモット, 1, 400 mg/kg

LD50, ラット, 1, 300 mg/kg

急性毒性 (経皮)

げっ歯類やウサギと異なりヒトとモルモットは血液影響の耐性がある。このような理由から、モルモットのデータはヒトへの急性毒性評価に適しているとされ急性毒性分類に用いられる。LD50, モルモット, > 2, 000 mg/kg

急性毒性 (吸入)

動物では、以下の器官に有害作用を及ぼすことが報告されている：血液(溶血)や、腎臓および肝臓への二次作用。ヒト赤血球は、げっ歯類およびウサギの赤血球よりも溶血に対する感受性が顕著に低いことが明らかにされた。LC0, モルモット, 1 h, 蒸気, > 3.1 mg/l この濃度では死に至らない。

プロパン

急性毒性 (経口)

単回経口投与の LD50 のデータなし。

急性毒性 (経皮)

経皮 LD50 は決定されていない。

急性毒性 (吸入)

密閉した場所または換気が不十分な場所では、蒸気が容易に蓄積し、酸素濃度が下がり、意識がなくなったり、死に至ることがある。過剰暴露により、エピネフリンに対する感受性が増大し、心筋の被刺激性亢進(不整脈)を起こすことがある。中枢神経系に影響することがある。空气中濃度が 1000ppm 未満の場合、プロパンは非常に僅かな生理的影響がある。

100, 000ppm 以上では、めまいやその他中枢神経系に影響する恐れがある。過剰暴露によって、頭痛、めまい、麻痺、眠気、意識消失をはじめとする中枢神経系作用を起こすことがあり、死に至ることもある。入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 蒸気, > 425000 ppm

水酸化アンモニウム

急性毒性 (経口)

単回経口投与のLD50のデータなし。

急性毒性（経皮）

経皮LD50は決定されていない。

急性毒性（吸入）

LC50は決められていない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

ブタン

魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す（試験した種のうち最も感受性の高い種ではLC50/EC50 1~10 mg/L）。

エチレングリコールモノブチルエーテル

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種でLC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

LC50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）、止水式試験, 96 h, 1,474 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）、止水式試験, 48 h, 1,550 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性

EbC50, *Pseudokirchneriella subcapitata*（緑藻）、止水式試験, 72 h, バイオマス, 911 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性

IC50, バクテリア, 成長抑制, > 1,000 mg/l

魚類に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Danio rerio*（ゼブラフィッシュ）、半静止試験, 21 d, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Daphnia magna*（オオミジンコ）、半静止試験, 21 d, その他, 100 mg/l

プロパン

魚類に対する急性毒性

関連のあるデータは得られていない。

水酸化アンモニウム

魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 0.1~1 mg/L)。

水系の pH を、水生生物に対して毒性を示すと思われる pH10 以上に上げることがある。

LC50, *Lepomis macrochirus* (ブルーギルサンフィッシュ), 96 h, 0.87 mg/l

LC50, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 96 h, 1.2 mg/l

残留性・分解性

ブタン

生分解性: 物質は易分解性であると考えられる。

理論酸素要求量: 3.58 mg/mg

光分解性

試験タイプ: 半減期 (間接光分解)

感作性物質: OH ラジカル

大気中半減期: 49 h

方法: 推定値。

エチレングリコールモノブチルエーテル

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。物質は最終的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では無機化が 70%超に達する。

10-day Window: 合格

生分解: 90.4 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 2.30 mg/mg

化学的酸素要求量: 2.21 mg/g 重クロム酸塩

生物学的酸素要求量 (BOD)

培養時間	BOD
5 d	5.2 %
10 d	57 %
20 d	72.2 %

プロパン

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

理論酸素要求量: 3.64 mg/mg

光分解性

試験タイプ: 半減期 (間接光分解)

感作性物質: OH ラジカル

大気中半減期: 8.4 d

方法: 推定値。

水酸化アンモニウム

生分解性: 生分解は好气的条件 (有酸素) で起こるであろう。生分解率は、順化により、土壌や水中で高くなるだろう。

理論酸素要求量: 0.76 mg/mg

生体蓄積性

ブタン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 2.89 測定値

エチレングリコールモノブチルエーテル

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 0.81 測定値
生物濃縮因子 (BCF) : 3.2

プロパン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 2.36 測定値

水酸化アンモニウム

生体蓄積性: 水溶性が比較的高いことから、生物濃縮がないと考えられる。

土壌中の移動性

ブタン

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。
分配係数 (Koc): 44 - 900 推定値。

エチレングリコールモノブチルエーテル

土壌中移動性が大きい(Koc 50~150)。
分配係数 (Koc): 67 推定値。

プロパン

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。
分配係数 (Koc): 24 - 460 推定値。

水酸化アンモニウム

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

オゾン層への有害性

ブタン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

エチレングリコールモノブチルエーテル

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

プロパン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

水酸化アンモニウム

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響**ブタン**

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

エチレングリコールモノブチルエーテル

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

プロパン

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

水酸化アンモニウム

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条例に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装: 廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

国連輸送名	AEROSOLS
国連番号	UN 1950
国連分類	2.2
容器等級	

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

国連輸送名	AEROSOLS
国連番号	UN 1950

国連分類	2.2
容器等級	
海洋汚染物質(該当・非該当)	No
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

国連輸送名	Aerosols, non-flammable
国連番号	UN 1950
国連分類	2.2
容器等級	

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

消防法

該当しない。

労働安全衛生法

安衛法 (ISHL) リスト この製品は、有害性調査制度 (化学物質登録制度) を遵守しています。

安衛法 危険物 該当しない。

安衛法 特化則 該当しない。

安衛法 有機則 該当しない。

安衛法 表示対象物質

成分	CASRN	濃度又は濃度範囲
ブタン	106-97-8	< 10.0%
エチレングリコールモノブチルエーテル	111-76-2	< 5.0%
水酸化アンモニウム	1336-21-6	> 0.1 - < 1.0%
安衛法 通知対象物質		

成分	CASRN	濃度又は濃度範囲
ブタン	106-97-8	< 10.0%
エチレングリコールモノブチルエーテル	111-76-2	< 5.0%
水酸化アンモニウム	1336-21-6	> 0.1 - < 1.0%

化管法 (PRTR 法)

該当しない。

毒物及び劇物取締法

該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

意図的使用成分はすべてインベントリー収載済みないし収載免除ないし供給元認証となっている。

16. その他の情報**改定**

ID 番号 : 101198890 / A151 / 発行日 : 2016/10/14 / 版番号 : 4.1

最新の改定事項は、この文書全体にわたって、左側の余白にボールド体の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。 ACGIH 限界閾値 (TLV)
ACL	管理濃度、基準濃度
Asphyxiant	窒息剤
BEI	生物学的ばく露指標
Dow IHG	ダウ社内ガイドライン
OEL-M	許容濃度
STEL	短時間暴露限界
TWA	時間加重平均
安衛法 (管理濃度)	作業環境評価基準、健康障害防止指針
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

ダウ・ケミカル日本株式会社は、お客様や(M)SDSの受領者の皆様が、この(M)SDSの掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDSを慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものであります。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDSなどの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDSに関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDSをお持ちの場合や、お手元の(M)SDSが最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。